



2017年 春季号

平成29年5月発行 通巻第6号

人生を拓く



(霞川へお花見に/ 撮影:大竹五郎)

目次

- P2… 予告/第4回定期総会 6月2日に開催 市民大学入学式 16講座に276人が入学
- P3… 23講座の400人が修了 こんなことあんなこと:SSVC10周年記念フェスタ ほか
- P4… ご無沙汰しております—あときの先生は今。第⑨回 いきがい学科 嵯峨座晴夫先生
- P6… SSVC10周年に寄せて 設立前、足かけ5年間の軌跡 “井戸を掘った”人たちの証言
- P8… 意識調査「同窓会についてのおたずね」結果詳報④
- P12… 人間探訪 第⑨回 花形直平さん 6年で11講座 すべて皆勤 「青石塔婆」を研究
- P13… そうだったのか 狭山の現代史概説 第①回 「入間基地」中山眞男
- P14… (全面広告・埼玉石心会病院)
- P15… 活動支援・クラブ活動 会員募集中! 3団体と14クラブの紹介
- P16… 告知板 編集後記 / 同窓会ホームページ案内

「さいたま市民大学同窓会」は皆様の貴重な会費で運営されています。

予告

さやま市民大学同窓会 第4回定期総会

6月2日(金)に開催

午後1時～ 市民交流センター1階

第2部 3時～ 交流会

さやま市民大学同窓会は、第4回定期総会を6月2日(金)に開催します。会場は市民交流センター(市駅西口、1階コミュニティホール)で、午後12時30分から受付を始め、開催は午後1時からです。

総会終了後、第2部として「会員交流会」を行います。参加費は500円で、おやじバンドの演奏や「落語」などの出し物が予定されています。奮ってご出席ください。



4月15日に入学式

4年目を迎え 16講座に276人が入学

4年目を迎えたさやま市民大学では、4月15日に元気プラザ体育館で平成29年度の入学式を行った。入学者は、11講座と協賛の5講座を加えた16講座の276人である。スタッフは合わせて68人となっている。

なお、「地域イベント・プロデュース基礎講座」と協賛の「実用英会話講座」、「子どもたちのものづくり指導員養成講座」の3講座は応募者が規定に達せず開講を見送った。

入学式は、第1部は小谷野剛市長のあいさつや来賓の市議会議長らの祝辞があり、第2部は共通講座として小山周三学長の「地域づくりとひとづくり」と題する講話、第3部は全体ガイダンスがあった。

講座別の(入学者数/募集定員)は次の通りだが、紫文字の6と10の2講座は後期開講予定である。

総合コース

1. さやま市民大学総合講座 (15/20)

まちづくりコース

2. 地域ジャーナル講座 (15/20)
3. まちのガーデナー講座 (16/25)
4. 狭山地域ふるさと学講座 (26/25)
5. みんなで楽しむ国際交流講座 (10/25)
6. 地域の防災リーダー養成講座 (詳細未定)

健康・福祉コース

7. 地域福祉とケアのあり方を学ぶ講座 (9/20)
8. 西武文理大学連携 健康づくり・介護予防サポーター講座 (17/25)
9. パパ・ママのお助け隊養成講座・乳幼児期 (17/20)
10. パパ・ママのお助け隊養成講座・学童期 (詳細未定)

いきがいコース

11. 早稲田大学連携 いきがい講座 (23/30)
12. 狭山の歴史講座 (37/30)
13. さやまっ子学習支援講座 (9/25)

協賛講座

協賛講座とは市内の市民団体などが企画・実施する講座の開催を、さやま市民大学が応援するもの。

14. 入門英会話講座 (21/24)
(主催：狭山市学校支援ボランティアセンター)
15. トレッキング講座 (27/30)
(主催：狭山トレッキングの会)
16. パソコン講座初級 (9/20)
(主催：さやま市民大学同窓会狭山パソコン支援の会)
17. パソコン講座中級 (14/20)
(主催：さやま市民大学同窓会狭山パソコン支援の会)
18. 韓国語講座「るんるんハングル」 (11/20)
(主催：NPO法人モヨラの会)



23講座の400人が修了

さやま市民大学の平成28年度修了式が3月18日に元気プラザの体育館であり、23講座の400人が巣立った。受講者数は413人で途中退学者は13人、修了率は96.9%だった。

第2部は記念講演会で、歴史作家で『直虎と直政』の岳信也さんの「なぜ今〈戦国の物語〉に関心があつまるのか」だった。

第3部は修了生の皆さんと修了団体との交流会があり、カフェコーナー(無料)も設けられた。

講座別の修了人数は次の通りである。

(受講者数/修了者数)

紫文字の3講座は後期開設

地域イベント・プロデュース基礎講座 (9人/9人)

地域ジャーナル講座 (9/9)

まちのガーデナー養成講座 (22/21)

狭山地域ふるさと学講座 (27/26)

パパ・ママのお助け隊養成講座～学童期～ (23/23)
 地域の防災リーダー養成講座 (21/21)
 みんなで楽しむ国際交流講座 (15/13)
 地域を支えるソーシャル・ビジネス基本講座 (11/9)
 地域福祉とケアのあり方を学ぶ講座 (17/15)
 健康づくり・介護予防講座 (14/14)
 パパ・ママのお助け隊養成講座 (14/14)
 いきがい講座 (27/27)
 狭山の歴史講座 (24/23)
 子どもたちのものづくり指導員養成講座 (13/12)
 スポーツボランティア養成講座 (12/12)
 学習支援員養成講座 (16/16)
 さやまの生活文化伝承講座 (12/12)

協賛講座

入門英会話講座 (23/20)

実用英会話講座 (22/22)

トレッキング講座 (32/32)

パソコン講座・初級 (20/20)

パソコン講座・中級 (20/20)

韓国語講座るんるんハングル (10/10)



写真/左・修了式典 上・修了団体らとの交流会

SSVC10周年記念フェスタ 2月16日に130人が参加

SSVCでは2月16日に発足10周年を記念して市民交流センターでフェスタを開催した。130人が参加した第1部の記念セレモニーでは、発足以来10年継続の学校支援員34人に感謝状と記念品が贈呈された。第2部の記念講演では、(株)第一住宅の河野経夫会長が「未来を担う子供たちのために」と題して。また、支援員や学校長ら4人が出席しての「これからのSSVC」をテーマに討論会があった。第3部の交流懇談会はワンコイン立食パーティー形式で約110人が参加して行われた。



こんなこと あんなこと

同窓会がからむニュースから

■狭山茶の里ウォーキング 11月19日に小雨のなかを

入間川沿いを中心に5キロと8キロを歩く市主催の健康ウォーキング。9時30分のスタート時には夜半来の小雨が残ったが、約700人(主催者発表)が参加。ウォーキングクラブではスタッフとして20人が参加して、コースの案内や誘導にあたった。



ご無沙汰しております

第6回

—あのときの先生は今。

いきがい学科
SSCC学長・同窓会名誉会長

さがざ
嵯峨座晴夫先生

17年前のSSCC創設(2000年9月)に関与され、現在の市民大学までずっと見届けてこられた先生に登場いただいた。早稲田大学で今は名誉教授の嵯峨座晴夫先生である。お住まいは市内柏原。教職の傍ら、当初からいきがい学科の講師を担当され、今も入学者に「いきがい講座入門」を講義されている。この間にSSCCの学長を6年間務められ、現在はVC(学校支援)の諮問委員や、わが同窓会の名誉会長でもある。(構成 中岡義)

【嵯峨座晴夫先生のプロフィール】1935年(昭10)、長野県飯田市生まれ。58早稲田大学第一政治経済学部卒業。59~75アジア経済研究所勤務。67~69インドボンベイ人口研究所留学。80早大文学部教授、83~84米カリフォルニア大パークレイ校研究員。87人間科学部教授。00~02日本人口学会会長、02早大理事。02~08狭山市教育委員。05退職・早大名誉教授。人間科学博士。専攻は人口学、社会統計学。08~14SSCC学長、14~現在 市民大学同窓会名誉会長。

●ご体調はいかがですか。何か健康法は。

一昨年の夏に奥能登へ家内とバスツアーに行ったのですが、宿に着いて直ぐに軽い脳梗塞を発症しました。幸いに現地病院に入院して治療を受けました。それからは大した病気にはなっておりません。健康法としては毎朝10分間のテレビ体操と1時間のウォーキングです。以前は道路のゴミ拾いも兼ねていました。ほかに、つい先ごろまで小学校の通学路で登下校時の見守りを10年以上やりました。

●「嵯峨座」という名字は非常に珍しいと思って検索したところ、全国の家電話がある世帯で4軒しかないようです。家系とか家のお仕事は何だったのですか。

その4世帯とは、私の生家の飯田龍江と今の狭山柏原、それに父親の弟が熊谷に、私の弟が厚木にいます。家系図を見ても嵯峨座姓は3代前ぐらいにしかさかのぼれず、「嵯峨座」の由来は不明です。嵯峨座姓には特に感慨はありませんが、画数が多いのには閉口することがありました。2人の娘はこの名前を継いでいません。父は龍江村役場に勤めていましたが、1期だけ村長をやりました。

●ネットで先生の高校の同窓会誌を拝見しますと、アユの「友釣り」がご趣味で、つい最近まで毎年夏には里帰りをしていたとか。

天竜川沿いに生家があり、小さいころからこの川が遊び場でした。川原での遊びや魚釣り、水泳で育ちました。高校は飯田高松(現飯田。市内には飯田長姫があり、54年の選抜で優勝して全国的に大フィーバ

ーした)でしたが、上京後も毎年のように夏には帰省し、つい5~6年前までの60年近くは天竜川に通いました。なぜ「アユ」だけに固執するかとい

えば、「友釣り」が面白いのと川魚のなかでは食べると美味しいのが最大の魅力なのです。

●先生は柏原にお住まいですが、狭山とのご縁は何だったのでしょうか。

狭山に引っ越して来たのは80年(昭55)で、45歳のときでした。狭山には縁もゆかりもなかったのですが、大学が所沢に新設の学部をつくるとの話が出てきて、周辺を見て回り、柏原の第一期の販売で購入しました。

●SSCCは2000年9月にスタートしましたが、このとき、先生は早大所沢キャンパスでの「いきがい学科」の開講に立ち会われ、講師も務められました。SSCCの誕生に関わられるようになった経緯は何だったのでしょうか。

町田市長の時代ですが、地域の発展には米国の「コミュニティカレッジ」をイメージした公開講座を考えておられたようです。早大は社会教育として成人を対象にした土曜講座を持っており、400人程の受講生がいました。濱口晴彦先生(早大名誉教授)と私らが窓口となり大学に働きかけましたが、双方の思いが開講の必要性で一致したのだと思います。大学名もこれにちなんだようです。

●先生は所沢市の市民大学に関与されていて、そこでの教訓は狭山にどう生かされましたか。

いきがい学科は、最初は早稲田サイドでテーマ



を決めてスタートしましたが、所沢キャンパスは場所（環境）が良いと受講生からも好感を持たれました。企画面では狭山は市民主体でしたが、ほかの多くは行政が主体で、そういうところはうまくいかなかったようです。これで地域住民からの発想が大事だと痛感しました。それに、狭山は受講料を徴収しましたが、これも正解でした。徴収していないところは、うまくいっていないようでした。やはり、受講する側もその取り組みへの真剣さが違うのです。

●「いきがい学科」の年間カリキュラムは前期で高齢社会の諸問題の講義を、後期で高齢者の健康づくりの実技を中心に置かれました。どういった経緯だったのでしょうか。

私が調整役となって宮内先生（スポーツ科学部・太極拳）らと話し合いました。前期

で「高齢社会の諸問題」を扱い、後期でも高齢者を扱うとしたら何が良いかを考えたとき、やはり「健康問題」だとなりました。それも実践的なものが良いと、後期の前半は「体力や健康」の実践としての実技を、後半はそれらの問題の「座学」で構成することにしました。

●02年6月から08年6月までの6年間、狭山市の教育委員を務められました。そして、08年4月から14年4月の元気大学との統合までの6年間、先生はSSCCの学長を担われました。初代の町田市長から仲川市長、野村教育長に継いで4代目でした。この動機と学長になられたときのご感想は。

08年4月に仲川市長からの要請でした。教育委員として市の教育行政について積極的に発言しました。学長になってまず感じたことは、修了生の皆さんが各方面で多面的な活動をされていることです。これは素晴らしいことだと思いました。

●ところで、先生は11年7月に内閣府が実施した「高齢社会フォーラム」の分科会でコーディネーターを担当されました。その結びの言葉として、『私も毎日腕章をつけて、小学生の登校の見守りを行い、ついでにごみを拾っています。そのとき路行く人に朝の挨拶をし合うのですが、一番挨拶をしないのはお年寄りです』と話されています。

これはもちろん、柏原なり狭山市民に限ることではないのですが、このお年寄りの「態度」はどのように理解したらよいのでしょうか。

どうも男性は面倒くさいのか、あまり挨拶はしません。年寄りがボランティアでやっていることに、なじまないものがあるのかもしれませんが。小中学生の子どもたちは挨拶してくれます。

●14年4月に学長を退かれた後は、先生には修了生が参加する私どもの市民大学同窓会の名誉会長をお願いしています。現在の同窓会の組織なり活動についてどう評価されますか。同窓会のありかたとか最近の講座についてはいかがですか。

女性対象のクラブが少ないとの印象がありますが、今の方向でよいと思います。あえて言えば、高齢社会はどうあるべきかを問う姿勢が肝要です。社会はどんどん変化していますから、

常に学習が必要になります。多様化している高齢者を組織に引き留めるのではなく、新しいクラブなどを作って新陳代謝を図るのも良いと思います。また、最近の講座の設定をみていると、高齢者には「養成講座」という考え方に反発する人が多いのは理解できます。市の要請がむき出しで余裕がないように見受けられ、市民感情とズレがあったのではないのでしょうか。

●同窓会が昨年末に実施した「意識調査」をご覧になっていかがですか。

私は元気大学ができるときに市民の意識調査を提案しましたが、実現しませんでした。今回の調査は同窓会を運営する上で絶対に必要なもので、素晴らしい企画です。結果も意義のあるものでした。ただ、この貴重な調査をどう生かすかは役員の皆さんが真摯に考えなくてはなりません。

●最後に、会員の皆さまにメッセージを。

会員の皆さんは頑張っているという印象を持っています。高齢者は自分の判断で活動してほしいです。地域のために人のためという発想が自然に出てくると思います。高齢者が元気で生きることが、社会の役にたっているのです。同窓会活動は、一人一人がアイデアを出し合い自主的な活動を中心とした組織にしていきたいです。



SSVC10周年に寄せて

設立前、足かけ5年間の軌跡

“井戸を掘った”人たちの証言

2007年(平19)4月に設立されたSSVCは今年で10周年を迎え、その記念フェスタが2月16日に開催されました(3頁参照)。大変に喜ばしいことでした。しかし、10年前の設立に先立つ03年から足かけ5年間の開設に向けての始動期は、決して生やさしいことではなかったと伺っています。同志の皆さんの、学校の門をこじ開けるような地道な努力があったのです。

そして、04年(平16)ごろには、既に「学校支援」が現在とほぼ同じ形態で順次実施されていました。

会報では10周年を機に、当時の活動を記事に残すことが重要と、いわば「井戸を掘った」方々の「証言」をいただきたく、代表してその後のSSVCを主導してこられた坂井敬一さんと、今もCNを務められている角田芙美子さん、それに富岡利男さんにお集りいただき当時を振り返っていただきました。(構成 中岡義)



ご出席者：写真/左から

富岡利男さん＝いきがい・歴史・パソコン・ジャーナルともに1期生。SSCC狭山台中CN、SSCCパソコン支援グループ長

角田芙美子さん＝いきがい学科1.2期生、パソコン学科3.4期生、SSCC狭山台南小CN、SSCC狭山台小CN

坂井敬一さん＝いきがい学科2期生、SSCC学校支援センター長、SSVCセンター長、同窓会副会長兼活動支援部会長

●そもそも「学校支援」活動の発想はどこから生まれましたか。

★当時から考えていたことですが、学校といえはいじめや暴力、不登校、先生の過重労働などに代表されるように、さまざまな悩みを抱えていることが窺えます。これが豊かさの代償とは悲しいことで、このままでは明日の日本はないとの思いがしたものでした。何とか元気なシニアが地域で学校にお手伝いできないかとの思いが発端です。

●「学校支援」のきっかけは何でしたか。

★それは、SSCCの誕生と同窓会の発足が源泉となっています。SSCCとの関わりから話しますと、町田潤一市長の「21世紀の高齢社会を豊かで活力ある地域社会とするために、この事業はどうしても必要なのです」との強いメッセージでのスタートでした。第1期生は2000年(平12)9月入学で、まず5学科が開講しました。

同窓会は01年(平13)4月に、SSCCの第1期修了生を中心に設立準備委員会(世話人清水滋男)を結成しました。母体は「高齢社会を考える会」で、後に各学科リーダーを交えて拡大し、計14回の会合で成案を得ました。そして、02年(平14)9月20日に、教育センターで設立総会を開催しました。賛同者114人が参加し、会長山川、副会長清水・橘、事務局長坂井が選出され、17のクラブが承認されました。祝辞は町田学長と来賓代表の早大嗟峨座

教授の2人、ほかに野村教育長、市の関係者や各学科の講師が参列しました。

●同窓会での学校支援のスタートは。

★03年(平15)4月に、活動支援部会に学校支援グループを設けました。名称は仮称「学習支援センター」とし、部会長は秋葉定男で、メンバーはいきがい学科修了生を中心に11人でした。

学校支援グループの本格的な取り組みは、同窓会の主旨の説明に市教委と学校教育部を訪問した際に、野村教育長の計らいで、10月2日に教育センターでの市内小・中学校長会に清水と坂井が出席できたことでした。そこでSSCC同窓会の成り立ちとか同窓会としての学校支援の主旨を説明する機会を得ました。

●学校側の「支援ニーズ」の把握はどのように。

★まず、学校が必要とする支援ニーズの把握が必要と考え、03年10月～12月に中学校への訪問面接を実施しました。また、10月に小学校長へ郵送でのアンケートを実施しました。同時に、同窓会員に学校支援に協力できるかのアンケートを配布しました。それは、行政と関係のない自主的な同窓会活動の一環であり、無償ボランティアであることを前提としての賛同者の募集でした。

●学校訪問はいかがでしたか。

★04年(平16)4月からはニーズ調査の結果を踏まえて、各学校へコーディネーター(CN)が訪問し

要望をお伺いしました。そして、全小中27校の中から最初に西、入間、狭山台の3中学を選んで、各校担当CNの指名とともにCNの養成や学校見学会を実施しました。合わせて37人の参加でした。

【月1回は御用聞きのように学校へ通った。早い段階で制作した腕章と名札は、学校訪問時に大変助けられた。(角田さん)】【校長や教頭には前向きな意識の方が多かったが、現場の教師には不信感なり違和感、何を頼めばよいのかとの戸惑いがあったように思う。(富岡さん、坂井さん)】



支援者腕章は「SSCC-OB」としている

この年、SSCCの所管が高齢者福祉課から教育委員会の生涯学習部社会教育課に移管された。この事業が生涯学習の視点から学ぶだけの場ではなく、社会の一員として地域で活躍してほしいとの期待があったことだった。

●生徒や学校の反応はいかがでしたか。

★05年(平17)に入り、CNや支援協力者の勉強会、学校訪問を重ねるとともに、徐々に支援を始めていきました。同窓会員だけでは限界があることから、順次一般にも広げることになりました。

【当時の中学は先生1人で対応できる状態ではなかったが、支援の仲間が横に付いたら、皆が真剣に課題に取り組んで聞いてくれた。支援者が教室にただで、役に立っていることを実感できた。そして、後で生徒からの感想文を読んで、話したことがよく伝わっており、理解されていたことを知って、感動するとともに私の宝となった。(富岡さん)】

7月から狭山台南小で支援を始めた角田さんは、「案ずるより産むが易し」と同窓会報で語っている(05年前期号)。

—初めての学校からの支援要請は20項目で、保護者の方々にも同じ協力要請が出ており、共同作業も伴います。はたしてうまくまとまるか緊張と不安を抱えてのスタートでした。6月の学校見学会を経て7月より支援開始。いざふたを開けてみると、学校見学会当日より支援を始める方もあり、複数の項目に手を挙げてくださる方もありで、他校の実績が確実に受け継がれているのを実感しました。現在まとめた支援は9項目で、うち授業支援(教科)の具体化は来年度になりそうですが、6項目(クラブ活動/読み聞かせ/計算チャレンジ/花壇整備/郷土資料室の整備/校内安全パトロール)は順調な滑りだしです。



06年10月 狭山台南小の古民具体験支援。授業前の挨拶

●開設に向け、学校支援の理念をどこに置きましたか。

また、のちの11年2月に「第12回朝日のびのび教育賞」を受章されたのはどこを評価されたとお考えですか。

★行政の依頼で始めたものではなく、自主的、自発的な市民の創意と^{こころざし}志に基づく「無償ボランティア精神」を原点に置きました。それと、文科省が旗を振って要請した「学校支援地域本部」の考え方に2年先駆けていたことです。これらの活動が全国的に稀有なものと評価され、行政を動かしました。

◎SSVC開設に当たり、門倉節明教育長からいただいたメッセージ(『共に学ぶ』創刊号(07年7月))

子どもたちが成長するには、親と子という「縦の関係」、兄弟姉妹という「横の関係」に加えて、地域の大人が地域の子どもたちを見守り育てていく「ななめの関係」が大切であると考えます。「ななめの関係」は母娘関係より余裕のある関係、緩やかな関係と言えるかもしれません。私は、この「斜めの関係」をつくることこそが、子どもたちを健やかに育てるために重要であると考えます。

多くの市民の皆さんに、ボランティアとして学校支援に参加して頂き、地域に生きる一市民としての確かな基盤を作って頂きたいと願っております。「地域の子は地域で育てる」を合言葉に、元気な学校づくりに皆さんのご支援ご協力をお願いします。

●そして、07年(平19)4月1日にSSVCは開設しました。思いは「感無量」でしたか。

★3月に市長と同窓会長の間で「運營業務委託契約」が成立し、「学校支援ボランティアセンター」(略称SSVC)がスタートしました。狭山台中に事務所も開設しました。これで学校・家庭・地域が一体となって相互に連携、協力して活動する拠点ができたことは心強い限りでした。

●開設から10年経ったSSVCの、これからの時代に生きる「課題」は何だと考えますか。

★文科省が今年2月に公表した学習指導要領の改定案で示した、今後の学校教育の目指す方向は、「主体的で対話的な学び」と「各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメント(学校経営の中核に位置付けるもの)」がポイントでした。今の子どもたちが成人して社会の中核を担う時代は激変に見舞われると予想されますが、大人にはそれに対応する力を持たせる責務があります。教育のIT化やAI時代に求められる教育は何なのか。SSVCは率先してこれらに対応できる準備をしなければなりません。志ある大学や学校と共同して実験・研究を行い、その実績を積み上げられるように準備のためプロジェクトを立ち上げたらどうかと思えます。

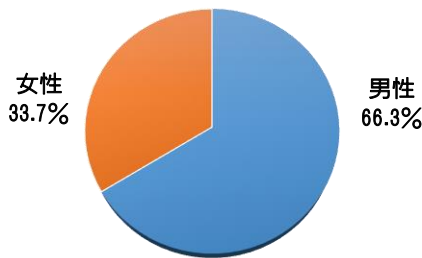
さやま市民大学同窓会の広報・広聴委員会では、2016年11月下旬から12月に、同窓会員の全員を対象に意識調査『同窓会についてのおたずね』を実施いたしました。これに多くの会員の皆さまのご協力に感謝を申し上げます。調査結果は会報の今号と次号(17年11月)の2回に分けて報告いたします。

■ 調査の概要 ■

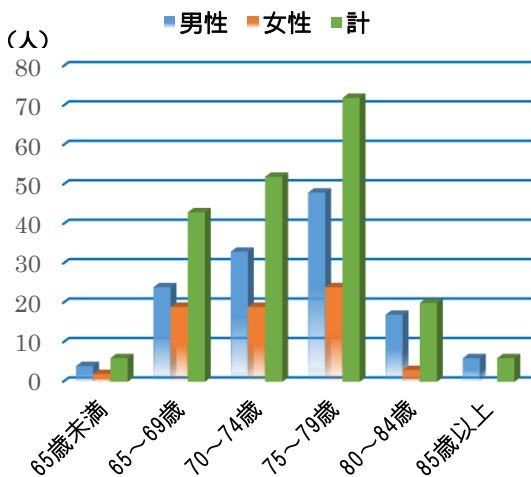
- 調査対象 / 2016年11月1日現在の同窓会員(市内在住) 578人の悉皆(全数)調査。
- 調査方法 / 調査票による個別配布→郵送回収(一部回収箱)
- 調査期間 / 調査票は会報第5号と一緒に16年11月21日から宅配(一部郵送)でお届けし、回収は料金受取人払いでの郵送か市民大学事務局の回収箱のいずれかで行き、締切は12月27日とした。
- 有効回収数・率 / 199・34.4% (ほかに無効票7)

回答者のプロフィール(属性)

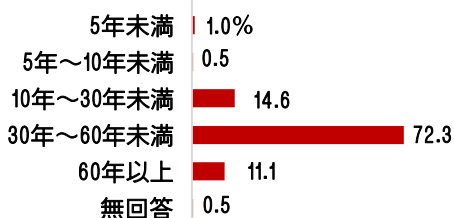
■ 性別 (問18)



■ 性×年齢別 (問18・問19)



■ 狭山市での居住年数 (問20)

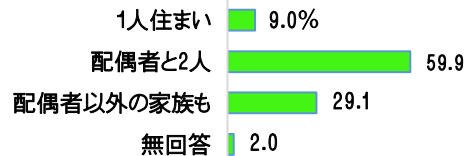


年齢分布(人)

歳	男	女
60		1
61		
62	1	1
63	1	
64	2	
65	2	4
66	6	1
67	5	7
68	7	1
69	4	6
70	5	5
71	4	5
72	10	4
73	10	3
74	4	2
75	21	11
76	9	7
77	4	2
78	10	2
79	4	2
80	5	1
81	4	
82	3	1
83	1	
84	4	1
85	1	
86	1	
87	2	
88	1	
89		
90		
91		
92	1	
計	132	67

平均
男性 74.4 歳
女性 71.6 歳

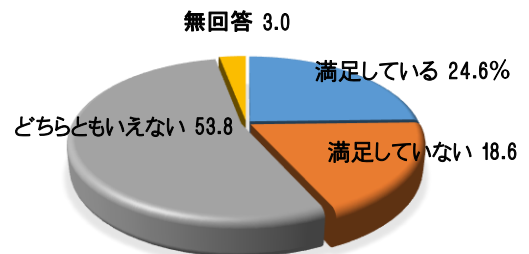
■ 同居家族 (問21)



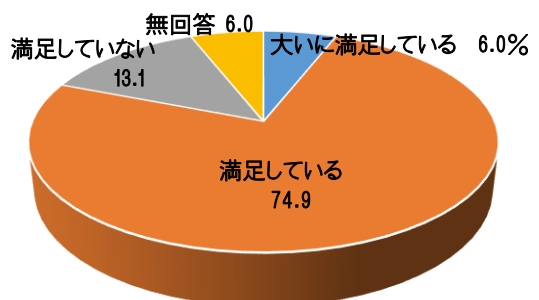
■ 健康状態 (問24)



■ 同窓会の満足度 (問9)



■ 同窓会報『人生を拓く』満足度 (問12)



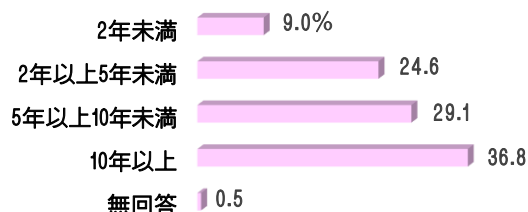
質問と回答

- ・質問番号の★印は、P8の「回答者のプロフィール(属性)」の図表に用いた質問
- ・質問番号の◆印は、「自由回答」の質問で、詳細は次号(第7号)に掲載の予定

同窓会全般

問1 あなたは、同窓会へ加入されて何年になりますか。

(〇は1つ)



問2 ★ あなたは、現在の同窓会に満足していますか。

(〇は1つ) ⇒(p.8参照)

問2-1 ◆ あなたは、「満足している」「満足していない」にかかわらず、その理由をご自由にお書きください。

(自由回答)

問3 同窓会総会は年に一度、6月に開催されますが、あなたは、これまで総会に出席されたことがありますか。

(〇は1つ)

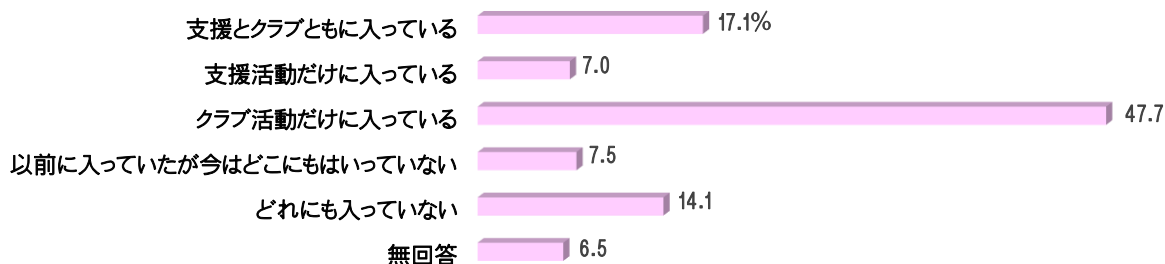
1. 出席したことがある	63.3 %
2. 出席したことがない	35.2
(無回答)	1.5

問3-1 ◆ 出席されなかった理由は何ですか。(自由回答)

問4 2000年(平成12)からスタートしたSSCCは14期続き、元気大学が3期、この2つを合体して引き継いだ市民大学が今年で3期目に入っています。あなたは、このSSCCと元気大学、市民大学の3つごとに、現在受講中も含めて、それぞれ修了した学科・講座数は延べにいくつになりますか。

全体平均 2.92 科目

問5 同窓会には3つの活動支援と14のクラブ活動がありますが、あなたは今、これらの支援やクラブに入っていますか。(〇は1つ)



問5-1 ◆ あなたが、支援やクラブに入っていない理由は何ですか。(自由回答)

問6 ◆ 今あるクラブとは別に、あなたはこんな支援やクラブがあれば入りたいと思うようなご希望がありますか。(自由回答)

問7 同窓会では認知症の講演会や「認知症サポーター養成講座」を主催して、会員の皆さんの参加に供していますが、あなたは、このような催しのあることをご存じですか。(〇は1つ)

1. 知っている	67.9 %
2. 知らない	29.6
(無回答)	2.5

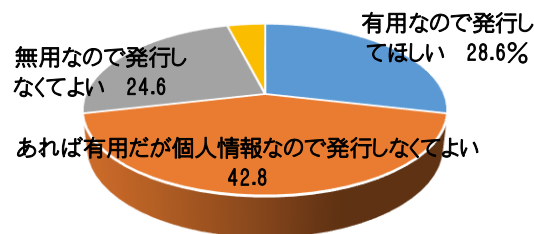
問8 ◆ 市民大学の同窓会以外で、あなたが地域で活動されているグループや団体がありますか。さしつかえなければ、参加されている名称をいくつでもお書きください。(自由回答)

問9 あなたは、さやま市民大学で新規に開講してほしいと思う講座がありますか。(〇は1つ)

1. ある	23.6 %
2. ない	55.3
(無回答)	21.1

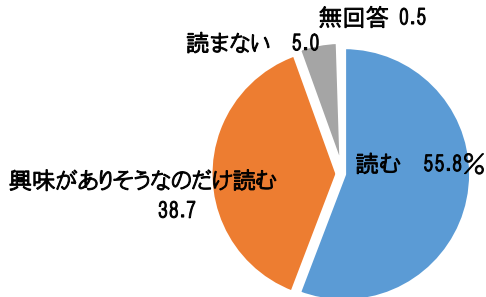
問9-1 ◆ それはどんな内容の講座ですか。(自由回答)

問10 同窓会では会員の方全員のお名前を掲載した『同窓会会員名簿』を隔年で発行していますが、あなたは、この名簿は必要と思いますか。それともいらないですか。(〇は1つ) 無回答 4.0



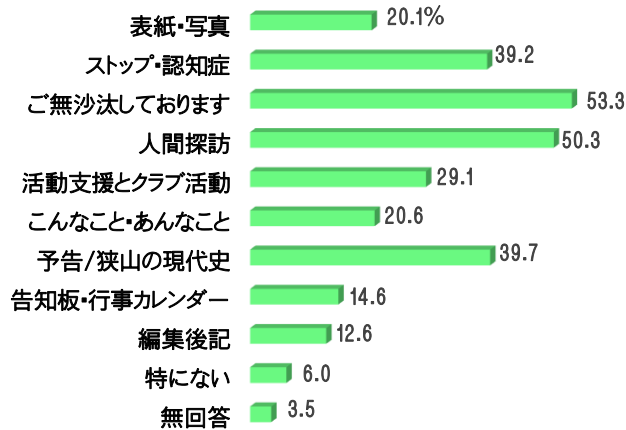
同窓会報『人生を拓く』

問11 同窓会報の『人生を拓く』は年に5月と11月の2回発行していますが、あなたは、この会報を読んでもらえますか。(〇は1つ)

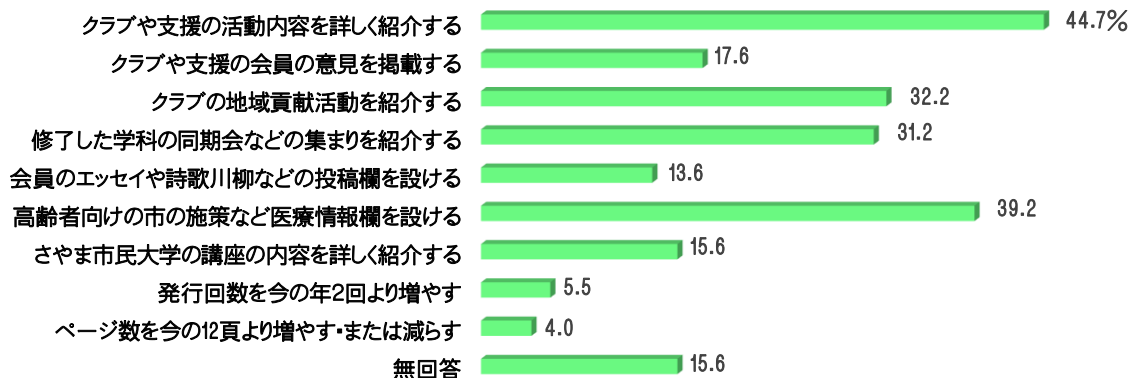


問12★ あなたは、最近の『人生を拓く』の内容に満足されていますか。(〇は1つ) ⇒(p. 8参照)

問13 『人生を拓く』には連載記事がいくつかありますが、あなたは、今回お届けした第5号で興味を持たれた記事はどれでしたか。次の中からいくつでも選んでください。(〇はいくつでも)

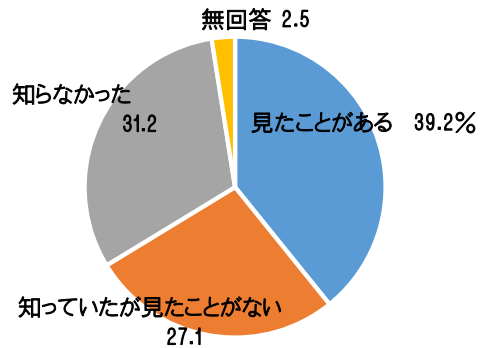


問14 今の『人生を拓く』について次のような意見があります。あなたは、この中で賛同されるものに〇を付けてください。(〇はいくつでも)



問15◆ 今の同窓会報へのご意見をお聞かせください。また、今後の会報への要望など、どんなことでもご自由にお書きください。(自由回答)

問16 同窓会では「ホームページ (HP)」を開設していますが、あなたは、このホームページをご存じですか。(〇は1つ)



問17 同窓会のホームページは、この9月から全面的に更新しました。ご覧になりましたか。(〇は1つ)

- | | |
|-----------------|-------|
| 1. 見た | 25.1% |
| 2. 見ていない・知らなかった | 63.3% |
| (無回答) | 11.6% |

問17-1◆ ご覧になって、ご感想はいかがですか。(自由回答)

問17-2◆ ホームページに関心を持たれないのはどんな理由からですか。(自由回答)

ご自身のこと

問18★ 性別は。⇒(p. 8参照)

問19★ お歳は。⇒(p. 8参照)

問20★ あなたは、狹山市にお住まいになって何年になりますか。(〇は1つ) ⇒(p. 8参照)

問21★ 同居のご家族は。(〇は1つ) ⇒(p. 8参照)

問22 パソコンはお使いですか。(〇は1つ)

1. 使っている	86.9 %
2. 使っていない	12.1
(無回答)	1.0

問 22-1 パソコンの使用実態は。(〇はいくつでも)

メールでのやりとりができる	83.9%
ネット検索ができる	80.4
文書作成ができる	79.9
表計算ができる	56.8
同窓会のH-Pを見る	38.7
無回答	11.6

問23 携帯電話やスマートフォンはお持ちですか。(〇は1つ)

1. 持っている	89.0 %
2. 持っていない	9.0
(無回答)	2.0

問24★ あなたの今の健康状態はいかがですか。(〇は1つ)
⇒(p. 8参照)

問25 あなたは日ごろ、健康維持のために何か運動をしていますか。(〇はいくつでも)

散歩(ウォーキングなど)	62.8%
体操(ラジオ体操など)	26.1
スポーツジム	11.1
自転車・サイクリング	13.6
プール	7.0
その他	32.2
何もしていない	10.1
無回答	3.5

問26 あなたは、何か問題が生じた時に相談できる人はいますか。(〇は1つ)

1. いる	93.0 %
2. いない	3.5
(無回答)	3.5

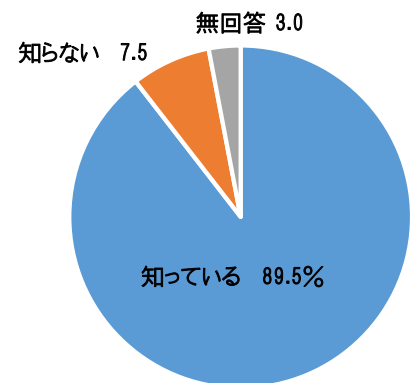
問26-1 それはどなたですか。(〇はいくつでも)

配偶者	71.4%
子ども	64.8
兄弟・姉妹	37.2
友人・知人	45.7
親戚の人	10.6
福祉施設の職員	2.0
その他	3.0
無回答	6.0

問27 あなたは、これからの老後生活の維持で一番関心を持たれているのは何ですか。(〇は1つ)

1. 健康	65.8 %
2. 生計	1.5
3. 病気	5.0
4. 医療	2.0
5. 介護	3.0
6. 孤独	1.0
7. その他	3.0
8. 特にない	0.5
(無回答)	18.1

問28 あなたのお住まいの近くにある、災害に備えての市指定の避難所の場所をご存じですか。(〇は1つ)



問29 お宅では、防災対策として用意されているものには何がありますか。(〇はいくつでも)

非常持ち出し袋	53.8%
家具・TV等の固定	31.2
非常時連絡方法の取り決め	18.6
水・食料	58.3
携帯ラジオ・充電器	56.8
その他	6.5
特に用意していない	14.1
無回答	3.5

人間探訪

『生涯受講生』が目標

第5回 花形 直平さん

これまで、SSCCから市民大学にかけての6年間で11講座を受講し、そのすべてを皆勤で通された方がおられる。花形直平さんだ。現在87歳で、8月には米寿を迎えられる。この4月の新学期からは新たに3講座をスタートさせている。他方、花形さんは、「狭山の歴史」を足掛かりに「青石塔婆」の研究にのめり込み、独自の研究を続けて、自費でその成果を上梓している。その健康の秘訣は、プラザへの通学や現地調査での自転車利用と、山歩き、同僚との交流だという。奥様と死別され北入曾で一人暮らし。刀剣鑑賞が趣味だ。(構成 中岡義)

6年間で11講座 すべて皆勤 「青石塔婆」を研究

まずは、「青石塔婆」がいかなるものか、門外漢にはわかりづらいので花形さんに説明していただく。――太古には海だった秩父盆地の海底の泥が固まってできた、緑泥石片岩を素材として作られた板碑(塔婆)のことです。鎌倉時代から戦国時代までの約400年の間に造立されていることから、不安定な社会情勢の世にあって、

社会の平安や極楽浄土への強い祈願の念があったのではないのでしょうか。ご先祖など死者の追善供養や、自身が生前に死後の平安を願う逆修供養を目的としているためでは――と分析される。ちなみに、現在狭山市内には約300の青石塔婆があるとみられている。

花形さんは、前職の業界紙記者を2009年(平21)に80歳で辞め、自由になって何気なく立ち寄った東村山のお寺の境内にある「青石塔婆保存会」で、石碑群が立ち並ぶ異様な靈気にショックを受ける。青石塔婆にはそれ以前から関心を持っていたが、それからは、すっかり青石塔婆にハマることになる。

そして、11年にSSCCの「狭山の歴史」の普通科を受講し、高橋光昭先生から「狭山にも青石塔婆は多い。研究してみたら」とのアドバイスを受けて、市内の板碑調査に専念するするとともに、翌12年も同学科の「歴史研究」コースを受講する。

12年秋に集大成として『中世の謎 青石塔婆物語り』を自費出版。その「はじめに」に、花形さんは「たとえ狭山市や教育委員会が改めて何十人もの調査団を編成してみても、出てくる結果は私の調べたのと大差ないものになると思われる」と記し、成果に絶対の自信を窺わせるのである。現在も半年ごとに巡回してフォローしているという。



その後、花形さんは「狭山の歴史」に留まらず、13年には「いきがい学科」、14年に市民大学の「ジャーナル学科」と「まちづくり担い手養成講座」、15年に「狭山地域ふるさと学講座」と「まちづくり担い手養成講座」、「さやまの生活文化伝承講座」の3つを、16年には「みんなで楽しむ国際交流講座」と「ソーシャル・ビジネス基本講座」「さやま地域ふるさと学講座(2回目)」の3つと、この6年間で11講座を学んだのだった。

この間で何よりも特筆されるのは、すべての講座を1日も休まず皆勤を通されたことである。

受講で心がけたことは、質問時間中に必ず1回は質問することだった。どの講座が印象に残っているかと聞かれれば、「それぞれが面白かった」のが正直な答えだ。

休みなく皆勤できたのも、風邪1つ引かず寝込まない健康体であったこと。その健康法は、通学と研究での自転車行動とともに、山歩きと講座で知り合った同僚との交流が大きいという。プラザには毎日のように来るが、昼食は必ずコミカフェでとる。奥様には19年前に先立たれ、それからは一人暮らしだが、自炊をすることはほとんどない。

さて、今期の講座だが、初登場の「さやま市民大学総合講座」と「みんなで楽しむ国際交流講座(2回目)」、「地域ジャーナル講座(2回目)」の3つを受講中である。

いつまで続けるのかって? 「体力、気力が十分なままで、生涯受講生でありたい」と。「墓マイラー」とともに、意欲満々なのだ。「怪物」である。

1929年(昭4)に山梨県の現・甲斐市の農家に生まれる。旧制韮崎中学在学中の15歳で予科練習生として土浦海軍航空隊で兵役。海軍二等飛行兵曹で復員・復学。山梨法律学校卒。甲府地方法務局勤務。55年上京。取材記者一筋。

もうだったのか 狭山の現代史概説

連載/ 第1回

入間基地

中山眞男

1. 所沢飛行場

1938年(昭13)、入間基地は所沢にあった陸軍航空士官学校分校の移転で開設された。当時、所沢には1910年(明43)にできた全国最初の飛行場があり、「航空公園駅」や所沢駅前「プロペ通り」はその「プロペラ」の名残である。

昭和ヒトケタから前の世代は、徳川大尉の颯爽とした勇姿や木村・徳田両中尉の墜落事件は今でも覚えている。蛇足ながら記録をたどると「日本で最初にヒコーキが飛んだのは1910年12月で、場所は代々木練兵所」とあり、これが最初の試験飛行とすれば、翌11年4月5日の「所沢飛行大演習」はまさに史上最初の本格的「航空ショー」であった。5日間で、大観衆の下でついに飛行時間30分、飛行距離30キロの大記録が達成されたのである。

2. 入間基地の開設

1931年(昭6)、満州全土を制圧した日本軍は、隣接する中国華北に入り戦線は拡大した。このため空軍の戦力増強は最重要課題であり、軍部は飛行場建設を急いだ。県内の飛行場は建設予定地として西部に狭山、高萩、坂戸を、東部には熊谷ほか3カ所の県合計7カ所を目標地区に設定し、まず1934年(昭9)には金子村他3村にまたぐ約60万坪の「狭山飛行場」が開設した。大本営の調査では、狭山地区は有史2600年間に大地震がなく、広い平地で完成が早いと判断された。

そして、同飛行場は面積を拡大するため、新たに金子村に並ぶ豊岡・入間川両町に「豊岡飛行場」を新設すべく、早速地主約80人と交渉に入った。買収価格は金子村の農地反当り420円の影響があり、370円プラス補償料で決着したが、価格よりも生業を捨てざるを得ない地主から強硬な買収反対があったのは理解ができる。それに、「ごねることが許されない時勢」でも離農の人に対し十分な面倒をみたのか問題を残したようだ。

工事は順調に進み、1938年(昭13)11月に飛行場は天皇ご行幸を仰いで完成し、「豊岡陸軍航空士官学校」は所沢校舎から3期生合計約500人のエリート軍人を迎えた。

3. 狭山地区の戦災

1944年(昭19)秋、グアム・サイパンの陥落に

より、米爆撃機の本土空襲が可能になり、終戦までの1年間は、無差別空襲にさらされることになる。とりわけ、首都圏防衛のため埼玉県は多数の飛行場で対応すべきであったが、残念ながら豊岡本体を含め所沢、福生、高萩など近隣基地の邀撃能力はなく、埼玉県は約40回の爆撃機空襲と、連日の艦載機空襲により、県内はまさに“やりたい放題”を許し、無数の敵弾に蹂躪されたのである。特に狭山地区は主な空襲だけでも合計18回の豊岡基地襲撃と、入間川町と近隣村落の「グラマン射撃」で6回の空襲があり、多数の死傷者が出た。

4. 空襲の事例

痛ましい事例は数多くある。罪もない農民が農作業中、米兵の面白半分での機銃掃射で、家畜を殺すようにもてあそばれ、殺されたのである。

米軍は日本人の家屋は木と紙で出来ているので、大量に焼き殺すため「焼夷弾」を開発し、3月の東京空襲で成功するや、6大都市で実験し、地方都市まで全国を焼き尽くす計画を実行し始めた。

首都圏では八王子、熊谷などが標的予定とされ、推定だが5月の市内笹井地区の焼夷弾落下は、近く予定されている八王子空襲の実験偵察帰りであったように思われる。笹井ダムから白髭神社までのわずか1キロの間に、大量の焼夷弾を一度に落下したのだから、ひとたまりもない。地元の死者13人、負傷者10人、罹災者346人の大惨事となった。夜中に逃げ惑った人たちはこの惨事を一生忘れまい。

終戦近い7月、入間村立入間国民学校(戦後は平成23年3月に閉校した市立入間小学校)では校長先生が空襲警報を聞いて、とっさに「天皇のご真影」を守護すべく、校庭に出た途端にロケット弾が直撃し片足が吹っ飛んで、翌日殉職したのである。

5. 終戦

終戦は、8月15日のご聖断で決定したが、基地の中では「徹底抗戦」を叫ぶ反乱分子がいて、騒然としていた。しかし軍幹部の指示により先導役の割腹自殺で幕を下ろした。これに追随する者も心配されたが飯能からの士官が「今さら軍服を着たまま故郷へ帰れない」と言い残してやはり自殺した。

新・埼玉石心会病院

狭山市入間川2丁目 (移転先住所)

市民会館隣り 狭山市駅西口至近 450床

救急 24時間・365日対応

「断らない医療・患者主体の医療」

2017年秋に完成予定の新・埼玉石心会病院は、「断らない医療・患者主体の医療」を理念に掲げ、低侵襲治療（患者様の負担が少なく回復の早い治療）を中心に置いた脳神経センター、内科、外科を統合した心臓病センターを有する450床の病院となります。救急医療については「断らない」ことをモットーに、現在年間7,000台以上の救急車を受け入れている実績をより進化させます。また、現在ほぼ毎日行っている健康講座「石心会健康塾」を通じ、地域の健康意識を高める活動を行って参ります。



新・埼玉石心会病院概要 (予定)

- ・ 病院名： 埼玉石心会病院
- ・ 病床数： 450床
- ・ 開院時期： 2017年 秋
- ・ フロア数： 6階建て 屋上ヘリポート
- ・ 入院診療科 (予定)

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、感染症内科、人工透析内科、緩和ケア内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、肛門外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、麻酔科

【ご注意ください】

現在、外来診療と健診センター（人間ドック・健康診断・特定健診）を行っている「さやま総合クリニック」は、現在の場所〈狭山市入間川4-15-25〉でそのまま存続します。

外来



社会医療法人財団 石心会

さやま総合クリニック

狭山市入間川 4-15-25 ☎ 04-2953-9995

特別養護老人ホーム



狭山市大字上赤坂 290-1

☎ 04-2950-2400

人間ドック・健康診断・特定健診



社会医療法人財団 石心会

さやま総合クリニック 健診センター

狭山市入間川 4-15-25 ☎ 04-2900-2223

看護師募集

2017年秋の新築移転に伴い手術室・病床数・救急車受け入れ台数等の増加により、新しい取り組みを行い、看護師を積極的に募集いたします。



「じっくり教育宣言」

教育養成期間は2年かけて患者さん中心の「あったかい」看護を提供しています。

社会医療法人財団 石心会

埼玉
石心会
病院

看護部

〒350-1323 埼玉県狭山市観ノ木1-33



04-2953-0306 (直通)

お気軽にご連絡ください

活動支援・クラブ活動 会員募集中!

同窓会の部会一覧です。関心がありましたら「連絡先」へお電話ください。

平成29年5月1日現在

会員数は 全体(男・女)

支援とクラブ名	代表者	会員数	入会金	年会費	連絡先	電話番号
学校支援(SSVC)	諸井寿夫	約400(半々)	なし	なし	事務所(プラザ内)	04-2927-1395
	市内公立小中校で、①各教科の授業ならびに放課後・夏期講習で先生の手伝い(無償)を、②行政から受託して、休日に自主運営の各中学の放課後教室で学習指導(有償)を行う。					
狭山パソコン支援の会	北田勇	20(7・13)	なし	1,000	北田勇	04-2959-2899
	市内の4つの公民館と共催でシニアを対象に「初心者パソコン教室」を開催しており、今年度で16期目。27年度から市民大学協賛の「パソコン講座「初級」を担当し、28年度から「中級」も。					
福祉支援(チョコラの会)	大内輝夫	18(2・16)	なし	500	大内輝夫	090-4416-3619
	定例会は毎月第3火曜9時30分から社会福祉会館で。活動は各自が月1回～2回程度を都合のよい日程で。福祉施設や個人宅を訪問し傾聴を中心に、いろんな指導や手伝いを。					
SSCCウォーキングクラブ	木全英雄	111(53・58)	1,000	上期入会2000, 下期1000	木全英雄	04-2955-0640
	県内や近県の低山・里山歩き等「安全に・楽しく・和やかに」がモットー。活動/年9回(貸切バス・電車ほぼ半々)、8.1.2月は自主。会報発行。⑨入会受付は従来の4月のみから通年に。					
手打ちそば・うどんを楽しむ会	元井一男	23(11・12)	なし	2,000	元井一男	04-2958-4146
	「そばグループ」と「うどんグループ」がある。実習と場所は、そばグループは第3金曜、うどんグループは第4金曜で、ともに9時～12時。会場はともに堀兼農業改善センター調理室。					
SC写真クラブ	戸田尚一郎	20(16・4)	なし	1,000	戸田尚一郎	04-2959-3412
	奇数月:例会、偶数月:撮影会。定例会は会員の作品を相互に鑑賞、批評とともに、講師の助言を受け技術の向上に励む。文化祭や中央病院での展示、各種写真展に出展し作品を公開。					
歴史クラブ	井口孝之	89(57・32)	500	2,500	井口孝之	04-2952-3361
	①定例会;毎月第2水曜 ②春・秋の見学会(5月・10月) ③各研究グループの活動(現在9グループが月1回の活動) ④地域連携活動(自治会と史跡巡りなど) ⑤学園祭、公開講座など。					
SSCCグリーンクラブ	岸本澄男	60(51・9)	なし	500	高羅尚典	04-2959-5836
	主な活動場所;狭山市近郊、埼玉県内、群馬県内。定例活動;春季・秋季(30回記念)コンペ。対外活動;狭山市ゴルフ協会市民コンペに。県内開催プロトーナメントへのボランティア参加。					
SCパソコンクラブ	鈴木怜子	12(8・4)	1,000	(半年)2500	鈴木怜子	04-2957-9814
	定例会;月1回狭山台公民館。Word&Excel の演習問題集・ドリルなどを使用。講師は持ち回りで前・後半各80分の2コマ制で。インターネットは常時接続可能。					
SSCC太極拳クラブ	荒井茂夫	30(18・12)	1,000	(毎月)1500	荒井茂夫	04-2954-1083
	健康医療体術「楊名時健康太極拳」の練功(主に中央公民館)。練功会;月4回(年間44回)の敢行。戸外練功や会員懇親会、新年会など会員同士の交流を図る。					
人間科学研究会	中山啓子	14(8・6)	なし	(隔年)1,000	中山啓子	04-2957-7714
	「脳科学」を中心とした著作の読書会とその折々の話し合いをしている。2月からは『「AIの衝撃」人工知能は人類の敵か』(小林雅一著)を勉強し、新しい知見に興味津々です。					
古典芸能愛好会	鈴木強	23(11・12)	500	500	鈴木強	04-2952-8617
	古典芸能の鑑賞等を通じてわが国古典芸能への知識・理解を深めるとともに、狭山市の文化活動の活性化に努める。都内の寄席や国立演芸場等へ出かける。					
うた声さりね(コーラス)	高須晴子	21(2・19)	なし	(半年)1,000	高須晴子	04-2958-5176
	定例会;第1・第3火曜に広瀬公民館で。四季の歌十年間歌曲を歌う。うたの上達より歌を楽しみ、仲良く。施設訪問ボランティアを実施し地域交流を。会員相互の親睦、健康増進。					
いきがい学科の会	木下清	105(69・36)	なし	500	佐野悠輔	04-2952-7117
	「認知症予防講演会」や「認知症サポーター養成講座」の開催。早稲田大学所沢キャンパス祭や市民大学学園祭に出店・参加。自衛隊入間基地見学会、NHK見学会等を開催。					
囲碁クラブ	山下邦夫	22(21・1)	なし	1,200	山下邦夫	04-2958-0906
	定例会;第1・第3・第5火曜(中央公民館)。毎回日本棋院普及員が2面碁で指導。市囲碁連盟等主催の諸大会参加。老人養護施設訪問。近隣市との交流会で親睦を深める。					
吹矢クラブ	野地秀多朗	22(15・7)	1,000	500	野地秀多朗	04-2950-5818
	定例活動;毎週木曜定例練習会。狭山台公民館、狭山台体育館、西武ハイツ自治会集会所。対外活動として各種大会参加、ボランティアで地域連携活動。暑気払い、忘年会(新年会)を。					
さやま卓球クラブ	小林誠一	23(10・13)	1,000	3,000	小林誠一	04-2959-6830
	練習会;月4回。第1・第3水曜と第2・第4金曜に、主に入曽公民館(13時～15時)で。初心者にはコーチによる指導と練習マシンによる基礎技術の習得で更なる技術の向上に努めている。					

■告知板■ 行事カレンダー

日(曜日)	行 事	会 場	時 間
【2017年】			
6月2日(金)	第4回同窓会総会	市民交流センター 1階	13:00~17:00
6月24日(土)	市民大学体育祭	智光山体育館	
10月21日(土)・22日(日)	市民大学学園祭	元気プラザ	
11月15日(水)	会報『人生を拓く』第7号発行		

意識調査『同窓会についてのおたずね』にご協力くださり、ありがとうございました。

【編集後記】

■今号は4頁を増やして16頁に拡大し、昨年末に実施した意識調査『同窓会についてのおたずね』の結果を報告しました。2回に分け次号(7号)にも掲載します。調査は会員の3分の1を超える協力をいただき、多くの有効な情報を得ることができました。これらのデータは同窓会の運営はもとより、会報の編集にも大いに活用させていただきます。

■前号(5号)表紙の南禅寺は好評でしたが、意識調査のお答えに「狭山市かせめてその周辺にまつわる写真もほしい」との主旨のご回答が何人かからありました。ごもっともなご意見ですので、今後はなるべく市内か狭山近郊に限りたいと思います。今号は入間との市境の霞川でのスナップです。

■『人間探訪』は、今年8月に米寿を迎えられる花形直平さん。6年間で11講座を受講し、しかもそのすべてを皆勤で通されたとは驚きです。「生涯受講生」が目標で、この4月からも3講座を受講中ですが、その傍ら自転車を駆って「青石塔婆」の研究に捧げておられる「墓マイラー」です。

■『そうだったのか 狭山の現代史』がスタートし

ました。終戦までは「空港」でなく、どこも「飛行場」と呼んでいたことなどを知りました。次回は「ジョンソン基地」です。ご期待ください。

■『SSVC 10周年に寄せて』は、10年前の設立に先立つ足かけ5年間は、開設に向け地道な努力がありました。その「井戸を掘った」人たちから証言をいただき、記事に残すことにしました。

■『ご無沙汰しております』の嵯峨座晴夫先生に、あらためて「長寿の秘訣」をお伺いしました。—余分なストレスを抱え込まないことです。長生きするには、気持ちにゆとりを持ち「継続こそ力」で、途中で止めないこと。元気で居られるようなライフスタイルを確立することです。それには、家にひきこもらないで外に出て、地域との関わりを持つことが大切です。そこで「いきがい」と「幸福感」を学び、得ることができれば申し分ありません。それには市民大学や同窓会活動が最も有効な1つです。(G)

■訂正して、お詫びします■ 前号(16年秋季号)にミスがありました。『ご無沙汰しております』の5頁左側24行目に「ヨモラ」とあるのは「モヨラ」でした。

●同窓会の「ホームページ」もご閲覧ください●

さやま市民大学同窓会

ホームページへようこそ

アクセスの手順

- ① ヤフー、グーグル等の検索欄に「さやま市民大学同窓会」と入力して、「検索」をクリックする。
- ② 「同窓会概要—さやま市民大学同窓会」をクリックすると、「ホームページへようこそ」が開きます。

さやま市民大学同窓会 同窓会報『人生を拓く』 2017年春季号 通巻第6号

- 発行日 2017年(平成29)5月15日
 - 編集 さやま市民大学同窓会 広報・広聴委員会
 - 発行 さやま市民大学同窓会
- 〒350-1380 狭山市狭山台1-21 さやま市民大学事務局内
事務局/電話 090-3514-6002
E-Mail; nakajima.t@ae.auone-net.jp